

とらのまな 限定小冊子

たぶんよく
できました？

水曜日



大和川です
「たいへんよくできました？」を
お買い上げいただき
ありがとうございます。



「たいへんよくできました？」はお読み頂けましたでしょうか？
今回せっかくこういった冊子を作らせて頂くので、
大和川の漫画がどんな風に来上がるのか、裏話的なものも交えて
紹介させていただきます。ブログとか持ってないんで、こういった場所でしか
話す機会が無いんですよ…



■というわけでこの冊子の表紙。
コミックスのタイトルが「たいへんよくできました？」を冠していますので、
じゃあ小冊子もそのキャラで…でもまったく同じじゃ面白くないな、
というわけで、本編では2ページしか出てこなかった咲の高校時代の姿です。
この頃のほうが可愛いですよ…

■この絵は時間の都合上、打ち合わせ無しで
行き当たりばったりの製作になりました。
なのでラフ絵での確認作業は無し、いきなり下描きからスタート。

■いつも下書き〜ペン入れまではアナログで作業しています。
トーン処理、効果線等の仕上げのみデジタルです。
すべてをデジタルでやってみようという一度試した事があるのですが、1コマ目で挫折しましたね…。
僕はエロマンガを描くまでは、とある先生の下で
長期間アシスタントをしまして、そこではすべてが
アナログでしたので、そこで慣れた方法、もっと言えば
そこで教わった財産(インクを使って紙に描く事)を
捨てることはできませんでした。
…なあんてカッコいい言い方をしましたが、
要するにタブレットではまともな
線が引けませんでした\(^o^)/

■まあそのご自慢(笑)のアナログでの作業も、かなり乱暴
なんです。下書きどおりに描けてなかったり、ペンの抜きが
汚い部分が多々あります。が、それをラクに修正できるのが
デジタルのいいところ。アナログでのみ出し修正は
ホワイトでチマチマ消していくのですが、修正ホワイトの
使いづらいこと…そのホワイトがはみ出してまた修正の
繰り返しとか。デジタルだとctrl+Zで何度でもやり直せちゃう。
しあわせ。

■今回の表紙の絵では効果線が無いので、デジタル作業は
トーンだけです。フォトショップにてグレースケールで
塗っていき、コミックススタジオにデータを移して
トーン化して完了です。出来上がりは表紙をご覧ください。



■コミックスのカラーイラスト案です。

とりあえず何種類か描いてみて、どれが表紙にふさわしいか、裏表紙にはこれを使おう、促販のイラストにはこれを使おう等々、後から用途を決めました。



■といっても表紙は01の咲の絵で決まってきました。タイトルにもなってますからね。

■裏表紙の05のヘッドホン少女は、06、07あわせて担当編集のお気に入りでした。僕は何よりもヘッドホンが描きたい！という願望があったので、その中で一番ヘッドホンが大きく描ける構図の05を採用。

担当さんは07が良かったそうですが… こういう真横視点のただ座っている絵って、むしろ難しくて正直苦手です…。

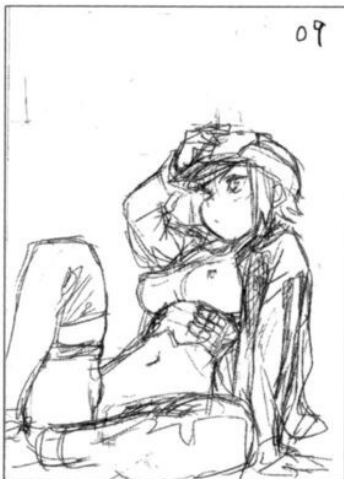
でもうまく描ければすごく格好良くなります。

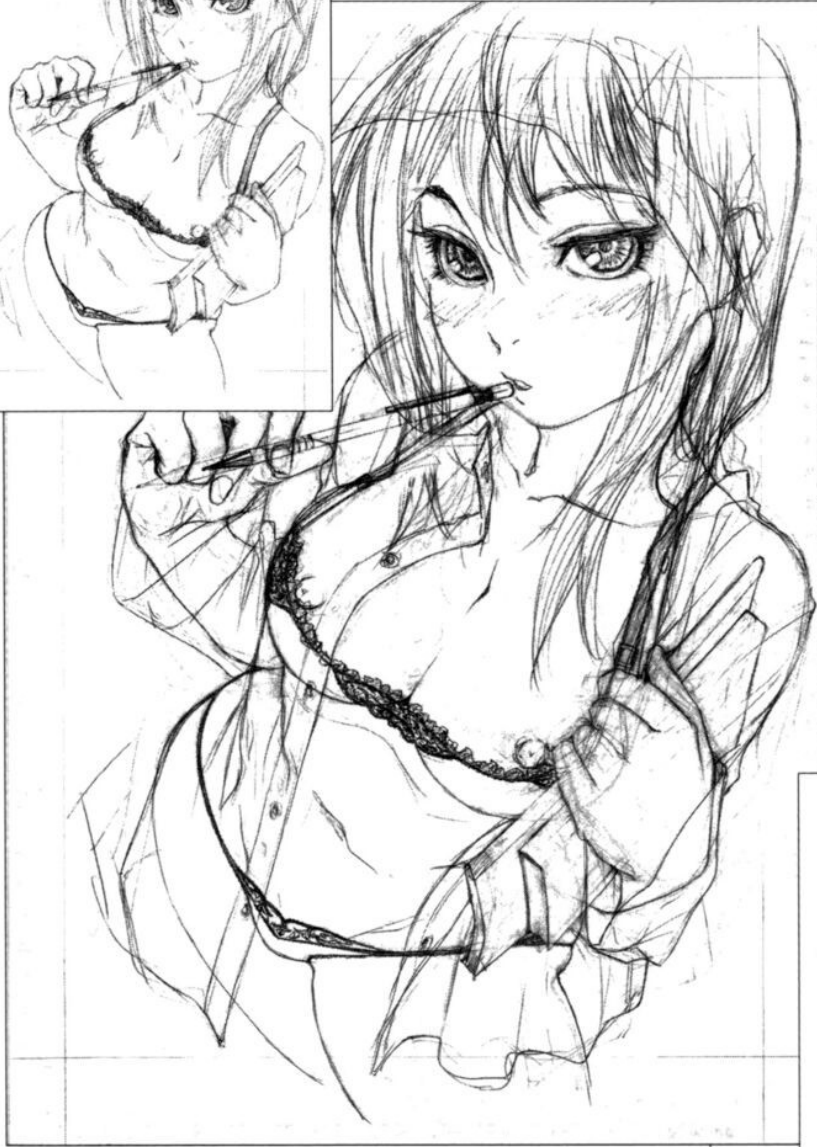
後で聞いたのですが、この絵の完成形は村田蓮爾さんのようなカンジの絵を想像していたとか。

んな無茶言わんでください！T_T

■04のメイドさん大集合は、コミックスの中でメイド服を着たシーンのあるキャラの全員集合です。本編のあとがきページに、これを基にしたラフ絵を描きました。服装は派手なのですが、表紙や目次などの目立つところに置くには少し動きが足りなかったです。そういう意味では03の絵はすごく元気で面白いのですが、残念ながら出番がありませんでした。

■11のバイクも描いてみたかったです。が、「CYBER RABBIT」の内容的に、顔が全部同じにならざるを得ないのでボツに。



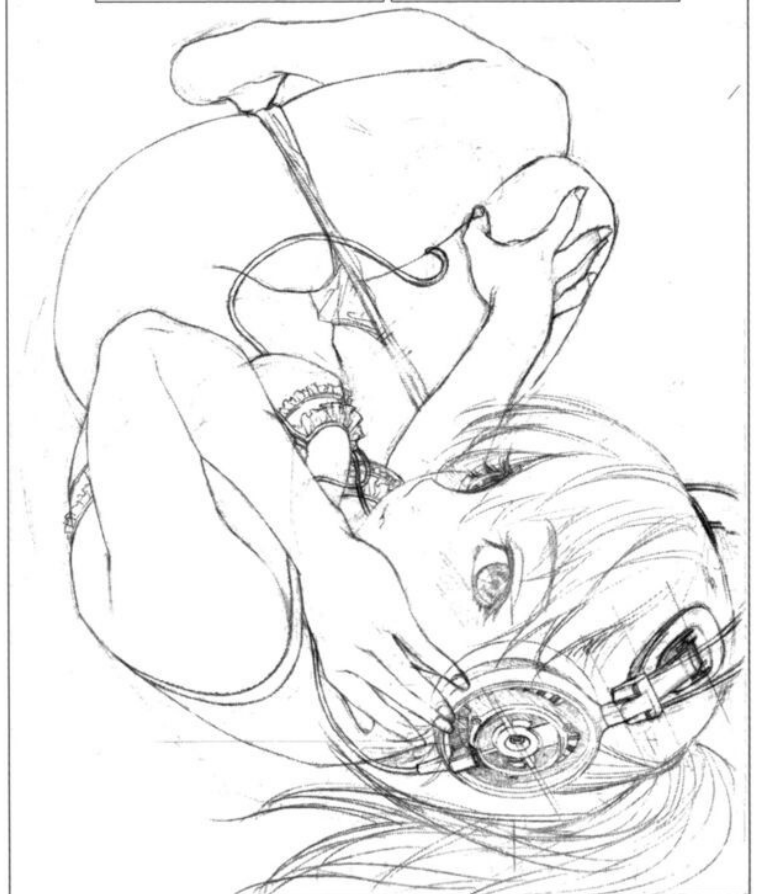


■表紙で一番苦労したのは、ポンチョの色ですね。下書き当初から透けた表現をさせたいと考えていたのですが、いまいちどの色もしっかり来ない。ポンチョだけレイヤーを分けて着色しているの、延々カラー調整のスライダーをいじくり倒しては担当さんに「これでどうでしょう・・・」と相談してました。しまいにはスカイプのビデオチャットを使ってこちらのディスプレイを映して、実際に目の前で色を変えて見せたり、かなり決定までに時間がかかりましたね。結局ファイバータオル付きの限定版はピンク、通常版は黄色と青のグラデーションになりましたが、こういうのって本来は描き始める頃からイメージしなきゃいけないものですよ・・・。この絵に限った事ではないのですが、いつも僕が描く絵は手探り状態です。いや行き当たりばったりと言ったほうが確かな・・・



■モノクロなのでちゃんと印刷に出るかどうかが判りませんが、左が通常版、右が限定版です。

■裏表紙は、担当さんに言わせると「こっちのほう表紙にすれば？」だそうです。まあ表紙の咲に比べて柔らかい表情で（というか、咲は設定上こわいお姉さんなので当たり前なのですが、それにしても表紙は漫画の本編以上に怖くなってしまったかもしれません、反省）、ヘッドホンもイヤカンジに存在感があって、正直自分でも気に入っている絵ではあるのですが、これを表紙にしちゃうとこのキャラの漫画「おねえさんといっしょ！」にものすごい重圧がかかります・・・。3年前の漫画にトップを張らせるのは勘弁してください。ちなみに裏表紙を見てもらえれば判りますが、ヘッドホンを覆うメッシュは後から描き足してます。まあメッシュ部分を手描きなんて僕にはそもそも不可能ですが、このメカメカしい中身を描いている時が一番楽しかったかも。余談ですが、このヘッドホンのお値段は8万円だそうです。このメーカーの安いのは持っているのですが、そんな値段だと聞こえる音は全然違うのでしょうか・・・？



■初回限定ファイバータオルです。

図柄はこれも

「たいへんよくできました？」の咲ですが、
作中より艶のある淫靡な娘に
なっちゃいましたね。

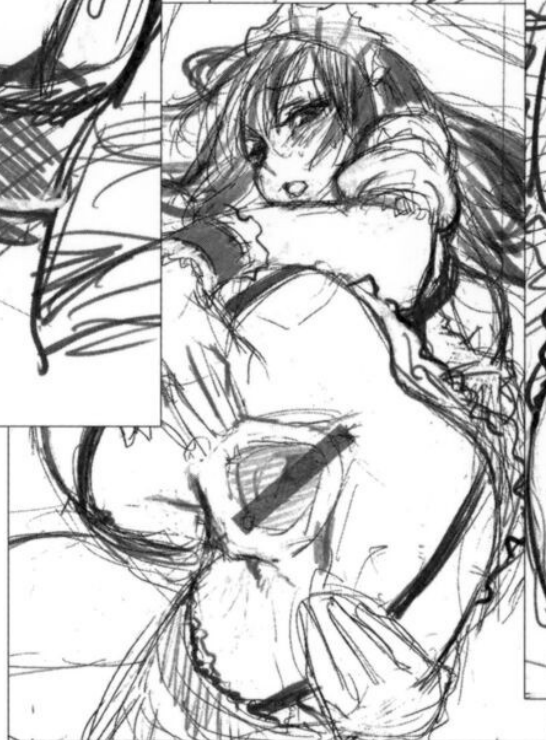
普段つっけんどんなツツン娘が
ベッドの上ではおねだりモード、
ああ……いい……！

とにかくフリフリ！を合言葉に、
まるで天蓋のあるベッドで誘ってるような
ゴージャスな雰囲気を出すべく描きました。

あなたはパンツをずりおろす派？

それとも横にずらす派？

もしくは履いてない派？



あ、僕は全部です。

■カラーイラストの話ばかりではなんなので、漫画本編の話など。

■漫画が出来上がるまでの手順といえば、読みきり作品の場合はまずキャラクター設定を考え、プロットを立てます。どういった感じのお話にするかを大まかに考え、担当さんに相談。大体こんな感じでいきましょうと決まったら、ネームを切っていきます。連載作品の場合はキャラクター設定をする手間は省けます。

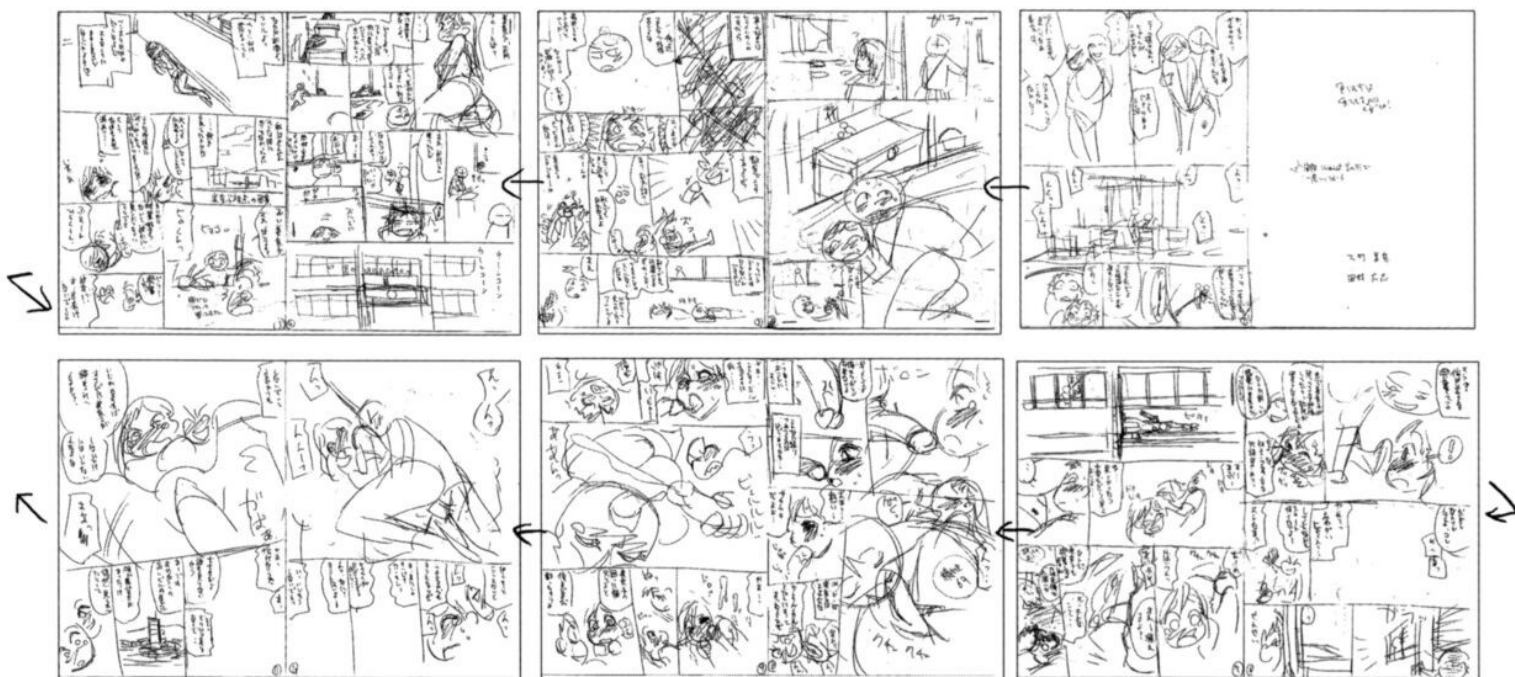
■しかしネームを切っている最中に設定が変わってしまうことは多々あります。一番上の01のキャラは、「たいへんよくできました？」の咲の原型です。まあこれは髪型が変わっただけですが、02、03は「imp~インプ~」のキャラ、04、05は「CYBER RABBIT」、06は「あすれちつくerror」と、それぞれ何かしら変化があります。

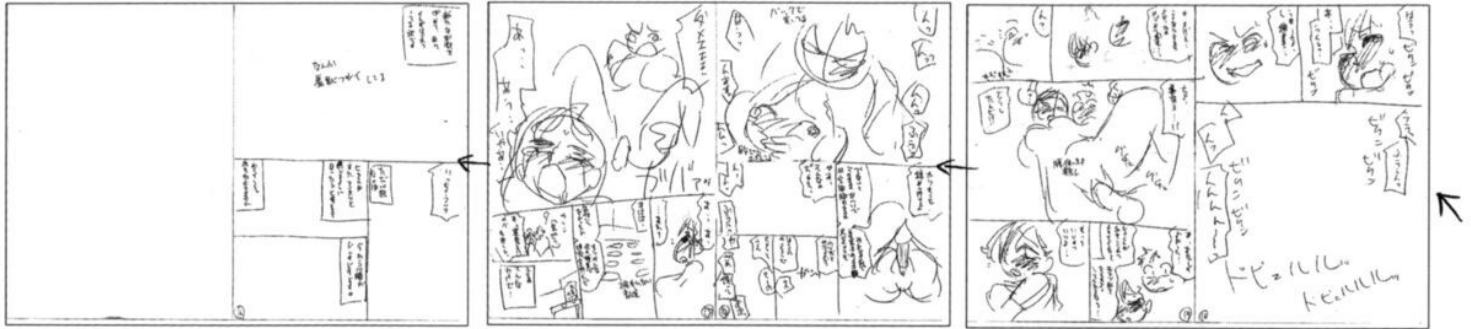
■ネームを切っている間に話が変わってしまってキャラクター設定を変えざるを得ないとか、ネーム中に落書きしたキャラが気に入ってしまっただけ変更したくなるとか、いろんな積み重ね(紆余曲折?)があって、キャラクターは生まれるものなんです。それがすべて良い方向への変化、変更なら良いのですが...久しぶりに過去の作品のキャラクター表を見返すと、なんで変えちゃったんだろう...的な感想もいくつかあります。

■まあでもその時一番良いと思ったキャラで描いているのは事実なので、.....自分を信じて！



■さすがに小さくて読めないと思いますが、↓は「ドキドキon the roof」のネームです。最後に行くほどキャラの描写は「○に十字」に近づきます...。普通の人には見ても何が描いてあるかさっぱりですが、担当編集はさすがプロ、すべて解説(!?)してくれます。ありがとうございます...。最後のページなんか絵描いてないよ...





■そして作画。本編の作画中は、わざわざ下書きを保存をしていないので製作過程を詳しくお見せできないのが残念です。



■スペースが余っちゃったので、昔描いた落書きでも。

■左は原付が欲しいなあと調べてた時に、面白い形のバイクを発見したので描いてみました。こういう小さくてへんな形のバイクは大好きです。本編のあとがきには「でっかいのに乗ってぶっ飛ばしたい」的な事を書きましたが、まあいろんな車種に乗ってみたいということで…。



■右のラフ絵は、1年位前に描いた連載用のキャラ案です。鎧が描きたい！！！！ってことで進める予定でしたが、イマイチ設定がうまくいかず、おあずけに。アーサー王伝説の円卓の騎士を全員女性にしてみるってのはどうだろう！？という、まあどこかでだれかがやってそうなアイデアでしたが、僕の悪い癖で、設定とか話、キャラを作っている間に重大な問題にぶち当たりました。

「あれ、エロマンガじゃないぞ？」

■でも鎧甲冑少女は、近いうちに描きます。乞うご期待。

たいへんよくできました？

大和川